

独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構
平成 21 年度国際ボランティア貯金寄附金に係る援助事業の実施報告

援助事業名 栄養失調児への給食実施及びH I V感染者雇用による運営

実施国・地域 中央アフリカ・バンギ市ブエラブ地区、ゴボンゴ地区

配分決定額 3,707,000 円－決定返還金額 233,817 円＝配分金額 3,473,183 円

総事業額 7,165,636 円－配分金額 3,473,183 円＝当会負担額 3,692,453 円

配分事業の内容

- ①バンギ市にある、アフリカ友の会 ブエラブ栄養失調児センター・ゴボンゴ栄養失調児センターの 2 か所に於いて、栄養失調児 200 名に対し、週 4 日の給食サービスを実施する。
- ②3 ヶ月を 1 クールとして 3 ヶ月間でクワシオコール・マラスムからの改善を目指す。
- ③週 4 日のうち、2 回は、朝と昼の 2 食を食べさせることで早期の改善を目指す。
- ④内容としては、朝食が、粥 200 カロリー・ヨーグルト 50 カロリー、 昼はミルクの他、350 カロリーの昼食メニューとする。 粥は、蛋白質の摂れるピーナッツバター入りの粥とする。重症栄養失調児には、栄養補助としてオイルサーディン・クロレラを与える。
- ⑤健康面においては、医師・看護師による検診や健康指導を常に行い、どんな極貧乃中にもあっても子どもたちに栄養を与えてきちんと成長することができるよう、栄養改善と健康回復を実施する。
- ⑥調理は、ブエラブ栄養失調児センターに賄い婦 3 名・ゴボンゴ栄養失調児センターに賄い婦 3 名とし、生活支援のため、HIV 感染者を起用する。
- ⑦鍋・釜・調理用具も一つのを毎日外で使用するため、1 年の使用で老朽化し、新しいものに買い換える必要がある。
- ⑧今年度も、専任者のもと、新たな受入態勢を持って、栄養失調児改善システムを実施する。すべての管理をソーシャルワーカーが行ない、栄養失調児ひとりひとりに対してのきめ細やかな指導とトータルの管理をする。

配分事業の進捗状況

- ①クワシオコール（低蛋白症）とマラスム（すべての栄養素不足）の子どもへの栄養改善事業を、ほぼ予定通り完了することができた。
- ②給食の内容も予定通り実施できた。給食を食べた栄養失調児は、週に延べ約 831 人。
- ③クロレラを飲んだ子どもの延べ人数は、合計延べ 16,144 人。

- ④徹底したカルテ管理と、スタッフの連携の下に、個々の子どもたちの栄養と健康管理を行なうことができた。
- ⑤新患の栄養失調児は、合計 1018 人。診察を受けた子供は、3,658 人。
- ⑥死亡した子どもは確認ができた数が 8 人
- ⑦改善し卒業したのは 1 年間に登録された新規栄養失調児のうち約（68%）に当たる 698 人の栄養失調児の栄養改善ができた。
- ⑧死亡か行方不明か確認ができない子どもが全体の約 2 割いるがこの国の事情ではやむを得ない結果である。
- ⑨栄養失調児は少しずつ改善されてはいるが、今年は重症な子どもが多く現在も次年度事業枠で継続改善中である

配分事業の成果

- ★重症の栄養失調児の親や育ての親が、アフリカ友の会の存在を聞きつけ連れて来ることで子どもの命を救うことができた。
- ★栄養失調児は表情が乏しく活気がないが、改善できた子どもには笑顔が戻り、走りまわるようになった。
- ★当会の他事業である啓発教育巡回や訪問診療に出た際に、村の中で重症の栄養失調児を見つけると、その都度、当会に来なさい、と声をかけることで、またひとつひとつの命を救えてきた。
- ★エイズ患者の母親には当会別事業のマイクロクレジットなど、自立支援への対応策を行い、自立して生活できるよう導いた。子どもが健康を取り戻すことで、親や育ての親は働くことができるようになった。
- ★子どもは国の未来であり、栄養失調児たちの命を救うことは多くの子どもたちや親、育ての親たちに、生きる希望を与えることができた。これは、大きな目標達成である。
- ★今期末の 3 月、貴機構より監査に梅原様がおみえになり、当会の活動を見てくださった。現実を見てくださったことで、この国の貧困と子供たち・エイズの問題を実際に肌で感じて頂き、伝えられたことは、私たちの大きな成果であった。
- ★ 事業は、全体的にはほぼ計画通り実施することができた。（ゴボンゴをブエラブに統合させたが、問題なくできたことも評価のひとつだと思う。

今期に栄養改善できた子ども 698 人の親・兄弟・親族がみな、元気になった子どもに明るい将来ができた、と希望を持って前向きに生きる意欲を見いだした。それが、何よりも自立へのつながりである。親族ばかりでなく、周囲で病気の子どもの持つ人々も「子どもが元気になる」という希望を持って治療への取り組みを始めるきっかけになった。子どもが元気になったので、働けるようになったことで食べられるようになったのである。この事

業の成果は一家の自立を促進したのである。

通ってきている現地の母親・育ての親・兄弟たちの声です。

- ・ アフリカ友の会の人たちが地域住民のために本当によくやってくれている。
- ・ 助けてもらって子どもが元気になり笑顔が出てきたことは本当にうれしい。
- ・ 子ども（孫）を元気にももらい自分も働けるようになった。マイクロクレジットで薪売りをしている。私はエイズ（祖母）だが、元気になった子ども（孫）のためにも頑張っていこうと思う。死んだこの子の母親も神と日本の人に感謝しているに違いない。ありがとう。
- ・ 私は子どもが8人いて栄養からきた病気だと4人の子どもが神のところに行くかと悲しかったですが、ここで助けてもらい私も頑張って働く勇気ができました。子どもは医者に生まれて初めて診てもらいました。日本のこの（掲示ポスターを指し）会社とマダム（アフリカ友の会）に感謝します。こんなに元気になってくれたので、いつか子どもを学校に行かせるようがんばる気持ちです。
- ・ 長い間ここには通わせてもらい、病気治療と給食をありがとう。うちの孫の状態はひどいと言われ、もう死ぬかと悲しかったです。私は頑張っていていつもここにきています。娘はエイズで死に、この子は娘の残した子供です。元気になって笑ってほしいです。助けてくれてありがとう。
- ・ 母親は死にました。父親はいません。兄弟は5人です。僕は16歳で僕たちは叔母さんの家にいます。弟が痩せてしまい、近所の人がここに行きなさいと教えてくれました。ここに来てから弟は少しずつ元気になりました。僕は野菜売りをしているが、この職員は僕から野菜を買ってくれます。もっと野菜を売ってお金を稼ぎ、元気になった弟を学校に行かせたいです。そうして弟たちが大きくなったら、僕も勉強してドミニック（SW）のようになりたいと思います。いつか日本に行きたいです。だから今は野菜（売り）を頑張ります。

栄養失調の子どもを抱えている親や育ての親は誰もが皆「シンギラミンギ(サンゴ語でありがとう)」と言います。

貴機構からの助成を表示したポスターを施設内の3カ所に掲示しているが（仏語・サンゴ語）識字率35%の国であり、ここに来るまずしい人たちの多くは教育を受けていない人です。口頭でも説明はしておりますが、理解力も乏しくすぐに忘れてしまうことも多いようです。彼らにとっては「誰が助けてくれている」よりも、子どもを救う為に藁をも掴む思い、であることだけがまず優先なのです。これは仕方がありません。

「日本が助けてくれている・マダム（代表徳永）が食べさせてくれている」

という認識を、ぼらちょ という認識にするのはなかなか困難であるが、定期的に（栄養指導講座の際などに）口頭でも「日本の郵便関係の会社 ボランティア貯金からお金をもら

っているんです」という内容の話をスタッフから母親たちに伝えるように徹底しました。
(理解力も低く、彼女らはその日食べて生きることが精一杯で全員が理解するかは難しいが、この点をご理解いただきたく思います)

以下は、それを理解している人の意見です。

- ・ 「ボランティア貯金」という人たちがお金をくれたから、マダムが食事を作ったり病気を治したりしてくれと知りました。日本のその人たち(ぼらちよ)はいい人たちです。ありがとうございます。そのお陰で、息子は元気になりました。息子も大きくなったら人のために働いてほしいです。
- ・ 僕は苦学生でお金がなく、彼女はこの子を産んですぐにどこかへ逃げてしまいました。この子には、母乳も飲ませられず、ミルクも買えず、死んでしまうところでした。僕は、大学に通っています。(この国では優秀者は大学は無料だが大学生で子どもを作り、卒業時には2~3人の子どもがいるのが一般的)
大学を出たら資格を生かして仕事につき、この子のためにも頑張って働きたいです。そして、日本の「ボランティア貯金」というところのように、またアフリカ友の会のように、生きるのが大変な人たちの将来に希望を与えるような人間になりたいと思います。

(職員・スタッフの意見)

私たちスタッフも、「もうこの子は生きられないのではないか」と思っていた子どもが、少しずつ栄養を摂り表情が出てきたときには大変嬉しくなる。

また、親や育ての親・兄弟が喜び、家族の皆が元気になり、働こうとする気持ちの余裕が出てくることは、何よりもうれしい。

栄養改善できた子どもが(当会の別事業の教育支援で)学校に通えるようになり

仏語を話したり、計算したり、絵を描いたり・・・そんな風に成長していく姿は何よりも励みであり、この国の行く先に明るい未来を感じる。(SW ドミニック)